

共 濟 懇 話 会

自主共済の再開を直ちに 保険業法再改定求め院内集会



すべての自主共済が原状復帰できるよ
う求めた院内集会

保団連も参加する「共済の今日と未来を考える懇話会」は10月7日、衆議院第1議員会館で、助け合いの共済を守れ！10・7国会内集会―原状復帰できる『保険業法改定』と政省令を求める」を開催した。国会議員7人、秘書13人をはじめ、懇話会参加団体は10月10日、国会議員に手渡した要請書には、全国59団体から賛同が寄せられた。復旧できる『保険業法改定』と政省令を求める」を主催者として、復旧できる『保険業法改定』と政省令を求める」を主催者として、復旧できる『保険業法改定』と政省令を求める」を主催者として、

◆国会議員(衆議院階級) 猛(民主)、宮崎岳志(民主)、空(民主)、山本(民主)、室井秀子(民主)、宮本(民主)、村まさみ(民主)、大門(民主)、山下よしき(共産)

◆秘書(衆議院) 郡和子(民主)、大西健介(民主)、初鹿明博(民主)、松本剛明(民主)、長尾敬(民主)、橋本勉(民主)、服部良一(社民)、下地幹郎(国民新)、辻元清美(無所属)、参議院 姫井由美子(民主)、大久保勉(民主)、金子原二郎(自民)、山下よしき(共産)

く成立させ、各共済を運営する団体の実態に即した政省令によるよう求めることが喫緊に必要な。立法府の役割を果たさせるよう、強く働きかけていこうと呼びかけた。

◆秘書(衆議院) 郡和子(民主)、大西健介(民主)、初鹿明博(民主)、松本剛明(民主)、長尾敬(民主)、橋本勉(民主)、服部良一(社民)、下地幹郎(国民新)、辻元清美(無所属)、参議院 姫井由美子(民主)、大久保勉(民主)、金子原二郎(自民)、山下よしき(共産)

主張

09年4月ブラハで、オバマ米大統領は、「アメリカは核兵器を使用した唯一の国として行動する責任がある」「核兵器の役割を下げる」「冷戦思考を終わらせる」などとする重要な演説を行った。

力はそのリーダーシップをとるべきだ」とした。もう一つは、08年10月の「核軍縮5項目」の提案である。そのなかで「核保有国は核兵器禁止条約の締結を」と注目すべき発言をしている。

NPTR再検討会議が開催された。核保有国の核兵器廃絶のための「明確な約束」を再確認する最終合意書を採用した。5年前の会議と比較して、大きな前進を世界の人びとと共有できた。しかし核保有国に対して、核兵器禁止条約の交渉

に賛同するには躊躇する会員がみられる。「核抑止」や「核の傘」の論調が一定の効果を得ていると考えられる。それには菅政権の政策、マスコミの財界・軍需産業寄りの報道が加担している。元米国防長官が明確に述べているように、

国の反撃で国家自体が崩壊した北朝鮮を想像できるだろうか。悲惨な被爆者の状況を想像できるだろうか。8月25日から30日までイス・バーゼルで第19回IPPNW(核戦争防止国際医師会議)が開催された。主催国スイスは、戦後一時期核兵器の開発を行った歴史がある。しかし核兵器で世界の平和は保障できないと、核兵器の開発を放棄し

た。全体会議でスイスの女性外相は「核兵器は人間が作ったものであり、人間の手によってなくすことも可能である」と述べた。核兵器禁止・核兵器絶のために、世界の世論と行動を

核兵器禁止・核廃絶の実現を

「核兵器のない世界を」とのオバマ発言を引き出した2つの重要な提言がある。一つは、07年1月の核戦略推進の元米政府高官4氏による「核兵器のない世界」の提言である。「核テロの脅威があるので、アメリカの安全保障は核兵器がないほうがよい」「アメリカ

前者は、世界人類の生存を保障し、人間の尊厳を守り、核兵器の残虐性を阻止する」という発想ではない。一方後者は、最大の暴力である核兵器の脅威から、世界人類を全面的に解放する」とする姿勢である。今年5月ニューヨークで

について、期限を限ったロードマップを明確にできなかったなど、いくつかの点で限界があった。さて、保険医協会・医会の中に、憲法第9条を生かす理念と行動に賛同する会員は多い。しかし、核兵器禁止・核廃絶の実現の発想

日本の安全保障に「核抑止論」は虚構であることが明らかとなつていく。翻つて北朝鮮が日本を核攻撃したと仮定しよう。その時点で「核抑止論」は完全に破たんしたことになる。そこで阿鼻叫喚の日本を想像できるだろうか。米

期核兵器の開発を行った歴史がある。しかし核兵器で世界の平和は保障できないと、核兵器の開発を放棄した。全体会議でスイスの女性外相は「核兵器は人間が作ったものであり、人間の手によってなくすことも可能である」と述べた。

核兵器禁止・核兵器絶のために、世界の世論と行動を

第25回医療研究集会

(1面記事の続き)

保団連医療研究集会で「人は人に癒される」と題して、全員のイラストレーターで児童文学者のエム・ナマエ氏が記念講演した。

シンポジウム 「認知症高齢者の介護と人権」

宮澤由美医師は、専門医として認知症に向き合っている実践をもとに報告した。歯科医師の五島朋幸氏は、要介護高齢者の口腔ケアと訪問歯科診療の役割の重要性を報告した。

シンポジウム 「戦争と医の倫理」を検証する

市民公開企画として行われた「戦争と医の倫理」を検証するシンポジウムには170人が参加した。3人のパネリストらが医師の戦争犯罪などを紹介し、医療倫理についての方向性を提起した。

シンポジウム 「日常診療における医療連携を促進するために」

大田洋二郎氏(静岡県立静岡がんセンター)が、がん患者を対象にした口腔ケアや歯科治療を、地域の歯科医師と協力して行う病診連携構築の実践を報告した。また、紙屋克子氏(筑波大学名誉教授)は、意識障害患者へ



記念講演を行う
エム・ナマエ氏

さらには山口研一郎氏(現代医療を考える会代表)は、「今や、生命工学は『人工細菌』を作ることにも可能になっており、一歩間違えば生物兵器への悪用も可能だ。確固たる医療倫理の確立が必要」と訴えた。

(次号以降に詳報)